



第5代整形外科教授を拝命して ～Nothing is Impossible～

徳島大学運動機能外科 教授 西 良 浩 一

伝統ある徳島大学運動機能外科（整形外科）教室の第5代教授を拝命し、11月1日着任いたしました。母校、母教室の主任教授に選出され大変光栄に思うと同時に、これからの教室の運命を背負うという重責もあり、今後、さらに精進続ける事、決意した次第であります。

アカデミズムを築き上げた安井夏生教授（現・病院長）の大きい流れに新しい風をブレンドし、日本一の教室にしたい。そう思わずにはられません。

運営に当たり、教室員に知っておいてほしい言葉があります。VSOPです。ブランデーのVSOP（very superior old pale）ではありません。

「V」(Vitality = 活力)

「S」(Specialty = 専門性)

「O」(Originality = 独自性)

「P」(Personality = 人間力)

すなわち、専門医を得るまでは、とにかく寝る間も惜しんで、我武者羅でがんばり、vitalityで乗り切っていたいただきたい。いわゆる generalist 修得の時代である。専門医修得後、specialtyつまり専門領域を決めて、その道に邁進して頂きたい。私自身を振り返っても、脊椎・スポーツを specialty に決めたのが卒後7年目の31才でありました。できれば、このV-Sの時代に学問を追求し基礎研究も行うと、博士取得に加え次のO-P時代への素晴らしい布石となります。

専門性を持ち10年過ぎれば、自ずと originality を要求される年齢となります。いつまでも、他人が書いた教科書通りの仕事に満足できなくなります。Originality の高い仕事を続ければ、自然と周囲から教科書執筆の依頼が来ます。つまり、教科書を書く人間になる時期です。大きく飛躍できる年代と思います。私自身、40代前半に二度目の留学を行い、後半には帝京大学溝口病院という関東激戦区で修行しました。Break-through を行った originality を追求した10年間だと実感しております。現在当教室には、すでに教科書執筆依頼され、時代の opinion leader となっている教室員が数名います。安井前教授より引き継いだ大切な財産です。彼らをさらに大きく成長させる使命を感じております。

私は現在49才です。本誌が皆様のお手元に配布される頃には、ちょうど50才になります。人間力の問われる50代、personality の50代を迎えます。これからの教室・同門運営には、私の personality が試される時期に来ております。就任当初の1か月を使い、医局長とともにできる限り多くの同門会の先輩方を訪れ、face to face でご指導を賜りました。基幹関連病院の実情も、日に焼き付けて参りました。難題が山積みの中、多くの先輩方から笑顔と激励を受けました。ありがとうございます。必ずや、これら難題を教室員全員で一丸となり乗り越えたいと思います。これから人間的にも大きく飛躍し、総勢400名弱の同門会全体のさらなる飛躍に貢献していきたいと決意しております。

写真は、就任の初日である11月1日に撮影したものです。みなさんの表情は、大変生き生きとして、希望に満ち溢れていることがわかります。Nothing is Impossible. 私の座右の銘です。希望に満ちた若き医局員と共に頑張れば、必ずや、Nothing is Impossible であると確信しております。

徳島大学運動機能外科学（整形外科）教室は、新米教授の元、若手中心で新しい船出を行いました。同門の諸先輩方、今後ともますますご指導賜りますようよろしくお願い申し上げます。初代・永井三郎教授、第二代・山田憲吾教授の培った誇りと伝統を基盤とし、直接ご指導賜った井形高明・名誉教授および安井夏生・前教授の熱い魂を後進に伝え、温故知新、邁進する決意であります。

われわれは、Nothing is Impossible を具現化する VSOP 軍団となり、徳島から世界へ新しい知見を発信し、日本に徳島あり、世界に徳島あり、と言われる教室を作り上げる所存です。

11月20日

徳島大学教授室において

